

IX 図書館および図書等の資料、学術情報

1. 施設・設備

現状と評価

A. 図書館および情報システム

1954年に丹下健三氏の設計によって建てられた図書館本館は、星野あい第二代塾長(初代学長)を記念して「星野あい記念図書館」と呼ばれている。

その後、1980年に旧書庫を建築し蔵書数の充実に対応してきたが、教育研究の発展、多様化とともに研究者、学生利用者の増加および蔵書数増加のために、閲覧席、収容書架の不足は図書館にとって長年の大きな課題であった。そのような状況に対応すべく、2000年4月には、図書館本館西側に新閲覧室および新書庫の増築を実施し、閲覧席数は新・旧閲覧室合計で450席、書庫収容容量は新・旧書庫合計で約53万冊までが可能となり、閲覧環境の整備と収蔵機能の拡充をはかることができた。また、車椅子用スロープ、エレベーター、身障者用トイレの設置など、障害者に配慮した設計ともなっている。

2002年3月現在の蔵書数は、和図書150,490冊、洋図書142,335冊、和雑誌2,341種類、洋雑誌1,021種類である。

本学図書館は、1988年1月より洋書書誌、所蔵データのデータベース化を行なっていたが、1996年10月からオンライン・コンピュータシステムを導入し、図書館資料の OPAC 公開を行ない、その後、1999年4月にサーバ機器の強化をはかった。

資料検索端末は、図書館閲覧室、開架書庫内、グループ学習室のほか、視聴覚センターや各研究棟にも配備され、学生や教員が学内外から自由にデータベースを検索できるよう整備している。

さらに、2000年4月には、新たに CD-ROM 検索用ネットワークパソコンと CD-ROM サーバを設置し、利用者は新聞情報、雑誌記事情報の検索を自由に行なえるようになっている。

館内は、貴重本室、個人文庫などの一部を除いて、書庫を含めた全館が開架式となっており、利用者は自由に所蔵資料を手にすることができる。さらに、2000年4月の増築を期に旧書庫最上階に位置していた学術雑誌、大学紀要類、閉架書庫内の新聞バックナンバーを正面玄関横のカレント雑誌コーナーおよび開架書庫 1～2階に配置したことにより、学生、教員研究者の利便性はさらに向上した。

フロア構成図はつぎのとおりである。

図表IX-1 図書館フロア構成

	[施設・設備]	[所蔵資料]
5 階 閉架書庫		・個人文庫(西脇順三郎、今岡十一郎 その他本学とゆかりのある方々の 個人所蔵であった図書や雑誌等を 保存している)
4 階 開架書庫	・所蔵資料検索端末 3台 ・閲覧席(6席)	・一般図書(洋書) 000 Generalities 100 Philosophy 200 Religion 300 Social Sciences 400 Language 500 Pure Sciences 600 Technology 700 The Arts 800 Literature 900 Geography & History 外交文書 OECD
3 階 開架書庫	・所蔵資料検索端末 3台 ・コピー機 1台	・一般図書(和書) 000 総記 100 哲学・心理学・宗教 200 歴史 300 社会科学 400 自然科学 500 工学・工業 600 産業 700 芸術 800 語学 900 文学
2 階 2F 閲覧室 開架書庫 津田梅子資料室	・貴重本室 ・コピー機 2台 ・マイクロリーダー・プリンター 1台	・和雑誌バックナンバー ・新聞バックナンバー ・参考図書(統計、索引類)
1 階 新・旧閲覧室 開架書庫 事務室	・貸出・返却カウンター ・レファレンス・カウンター ・グループ学習室 ・雑誌カレントコーナー ・マイクロフィルム保管室 ・図書館システムサーバ ・業務用端末 13台 ・所蔵資料検索端末 7台 ・外部データベース/インターネット 検索用パソコン端末 10台 (利用者用5台、業務用5台) ・CD-ROM 検索用パソコン端末 7台 ・コピー機 3台 ・マイクロリーダー・プリンター 2台	・洋雑誌バックナンバー ・大学等紀要類 ・参考図書(辞典類、地図、年鑑) ・カレント和・洋雑誌、新聞 ・新着 和・洋図書

B. AVライブラリー

AVライブラリーは語学研究所時代のテープライブラリー開室以来、授業時間以外で自主学習のできる資料と空間を提供している。

2002年3月現在、約60言語、約9,000本のオーディオ資料、約5,200本のビジュアル資料、および約3,700冊の付随テキストを有する。その資料構成は語学資料だけでなく、歴史、ドキュメンタリー、保健体育、数学など幅広い分野にわたっている。

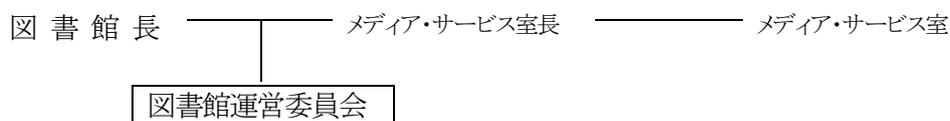
資料の選定収集にあたってはAVセンター運営委員会および関係する教員との連携をとりつつ行なっている。AV資料はすべてデータベース化され、図書館資料とともに OPAC に公開し、学内・学外を問わず、24時間いつでも検索が可能である。

2. 運営体制

A. 図書館

現状

英文学科・国際関係学科・情報数理科学科、保健体育教室および外国語教育を対象とした図書館の運営組織は、以下のとおりである。



図書館長は教員である。図書館運営委員会は図書館長の諮問機関として、図書館運営の大綱に関すること、図書館予算・決算に関すること、図書館資料の購入方針や蔵書構成に関すること、寄贈資料の受入れ、所蔵資料の除籍に関すること、および図書館の規程等の制定や改廃に関することについて審議を行なっている。

評価および問題点と改善の方策

図書館運営委員会では、各学科からの代表として図書館運営委員が参加しており、決議事項はすべて報告され、また各学科からの意見等も述べられ、各学科と図書館運営に意思の疎通を欠くことのないよう努力している。しかし、月1回の定例委員会開催では、図書資料に関係する問題について審議する時間に多くを費やし、今後の図書館のあり方などについて大局的見地から検討を行なう時間が少ないことが挙げられる。

図書館長を中心に、各運営委員、図書館スタッフの問題意識を高め、図書館運営体制の向上を目指す機会を増やす必要がある。

B. AV ライブラリー

現状

AV ライブラリーは、視聴覚センターの一部として位置づけられており、視聴覚センターの運営組織は、以下のとおりである。



視聴覚センター長は、教員である。視聴覚センター運営委員会は、LL および AV に関する設備と教材の管理運営、ならびに外国語委員会、各学科、その他から依頼された AV 教育に関する授業の運営および教材作りに関することについて審議を行なっている。

評価および問題点と改善の方策

視聴覚センター運営委員会には、各学科から選出された視聴覚センター運営委員が参加しており、決議事項はすべて各学科・教室に報告され、また各学科からの意見等も吸い上げられ、各学科と視聴覚センターの間に意思の疎通を欠くことのないよう努力している。現状の問題点として、視聴覚センター運営委員会が通常春秋の年2回開催であるため、今後の視聴覚センターのあり方について等、時間をかけて話し合うことが少なかつたことが挙げられる。

今後は、さらに各学科・教室の意見や利用者の声を聞いて、運営委員会で取り上げ、問題点の解決、視聴覚センター運営の向上に努める必要がある。

3. 資料の整備状況

A. 図書

現状と評価

本学図書館の蔵書数は約29万冊を数え、うち約28万冊以上が開架図書として利用者が自由にアクセスできる状態にある。研究所等一部に複本として別置されている図書を除き、図書館本館への資料の集中に全学教員が協力して、予算制度を遵守しつつ効率的な資料整備に努力している。

また、現在、新規購入図書の整理と並行して、図書館システム導入以前に受け入れた図書の書誌・所蔵データの遡及入力を行なっており、データベース化された図書資料総数は2002年4月現在で21万件を超えている。今後2003年3月末までに、開架書庫および閲覧室内図書のうち利用頻度の高い図書のデータベース化を終了する計画である。

分類別蔵書数および蔵書総数は以下のとおりである。

図表IX-2 分類別蔵書数

(2002.3.31現在)

NDC(日本十進分類法)	和書	洋書	合計	構成比
0(総記)	20,285冊	6,861冊	27,146冊	9.27%
1(哲学・心理学・宗教)	9,238	6,046	15,284	5.22
2(歴史)	16,978	13,795	30,773	10.51
3(社会科学)	44,314	24,861	69,175	23.62
4(自然科学)	18,547	24,086	42,633	14.56
5(工学・工業)	2,779	343	3,122	1.06
6(産業)	2,556	922	3,478	1.19
7(芸術)	4,924	2,684	7,608	2.60
8(語学)	8,610	16,687	25,297	8.64
9(文学)	22,259	46,050	68,309	23.33
合計	150,490	142,335	292,825	100.0

図書資料の整備に関しては、教育・研究活動の動向を考慮する一方で、各分野にわたる学生用教養図書の充実に配慮しつつ、蔵書構成上、著しくバランスを欠くことのないよう、基本図書の整備にも重点を置いてきた。各学科・教室の選定による研究用図書と図書館選定による学生用図書とに大別されるが、学生用図書の選定は、おもに次の各項に基づいて行なわれている。

- ・ 授業関連分野の図書
- ・ 講義概要に示された参考文献
- ・ 教員からの学生用推薦図書
- ・ 学部学生、大学院生からの購入希望図書
- ・ レファレンス業務を通じて不足していると認められた分野の図書
- ・ 女性学関係図書
- ・ 本学および創立者関連図書

特に和書については、1997年より毎年500万円の特別予算措置が講じられ、社会科学全般、歴史・宗教・哲学等の人文科学、女性問題および現代社会事象に即した分野について、おもに新刊図書を中心に選定を行ない、その充実に努めている。

多摩アカデミック・コンソーシアム(Tama Academic Consortium)での相互協力が始まった当初は、他大学から社会科学分野の和書を借り受ける頻度が非常に高いという傾向が見られたが、前述のとおり、全学的問題としてその充実に努力した結果、最近では他大学の利用は、絶版等で、すぐには入手できないような洋書が中心となってきており、確実に成果が上がっていると考えられる。

また、特色あるコレクションとして、英米文学、言語学、英米の社会・歴史、女性問題に関する資料を収集するとともに、19世紀イギリス関係資料の収集にも重点を置いている。これらは学内のみならず、他大学からの学生、研究者にも利用されている。

問題点と改善の方策

本学は、英文学科、国際関係学科ともに、研究方法が社会科学、人文科学両分野にわたることを特徴としているうえ、情報数理科学科の自然科学にも配慮が必要である。

さらに教員の指導の影響で、2年生ともなると学部学生であってもかなり専門的な資料を要求する度合い

が非常に高くなっている。そのため、比較的小規模な大学であるにもかかわらず、多くの学問分野にわたって最新資料から歴史的資料まで、あるいは教育用図書から研究用図書まで幅広く収集整備することが要請されることとなり、予算あるいは施設・設備の制約上、利用者の要求すべてに十分応えることができていないのが現状である。

今後は、外部データベースあるいはネットワークを活用し、他大学をはじめとする学外諸機関との連携をより緊密にすることによって、資料の不足を補う点に一層の努力が必要となろう。さらに、デジタル化、ネットワーク化時代における新しいメディアの出現、とりわけ CD-ROM あるいは電子ジャーナルに代表される電子出版物についても、ソフトウェアの充実・ハードウェアの整備を検討していかななくてはならない。

資料のデータベース化についても、学科研究室、情報数理科学科図書室に別置されている図書を中心に、2003年度以降も全資料のフルデータ化に向けて取り組んでいかなければならない。

B. 学術情報誌

現状と評価

図表IX-3 購入雑誌の学科、教室別タイトル数

学 科 名 等	洋雑誌	和雑誌	合 計
英文学科	236 種	23 種	259 種
国際関係学科	199	90	289
情報数理科学科	98	20	118
保健体育教室	16	23	39
外国語教育	1	10	11
図書館共通	21	44	65
合 計	571	210	781

これらの雑誌は、各学科・教室の要望を基本とし、それに学生の要望等を加味して選定し継続購入している。各学科・教室図書費予算または図書館共通予算から支出し、適正な予算管理を行なっている。

上記購入雑誌以外に各大学からの紀要類として、1,674タイトル(2002年10月現在)を所蔵している。

問題点と改善の方策

雑誌の購入継続の有無については、毎年1回、図書館から各学科・教室等に対して見直し検討を依頼しているが、最近の洋雑誌の高騰にともない、各学科・教室等の図書費予算を圧迫する要因ともなっている。これを少しでも改善するために、取り扱う複数の業者から見積りを取り、値引き交渉を行なっている。

学術雑誌は、大学の研究、教育への関連の深さ、あるいは利用頻度の高さなどについて十分考慮しつつ、同時にただ利用頻度が低いからといって即断的に継続中止をするのではなく、学術的に貴重なもの、他館では所蔵しているところが少ないものなどは、効率だけを考えるのではなく慎重に取り扱う必要がある。そして、大学として所蔵すべき総合的な「学術雑誌全体構成」を明確にしていかなければならない。

また、紀要類は研究をする上で非常に重要なツールのひとつであるが、書庫スペースの関係上、永久保存対象を除き、原則として5年を限度として順次廃棄せざるを得ない状況となっている。対策として、大学間の相互協力を一層緊密にし、利用者の要望に応えなくてはならない。

C. 視聴覚資料等

現状と評価

2002年10月21日現在 津田塾大学 OPAC に公開した視聴覚資料数は、下記のとおりである。

図表IX-4 津田塾大学 OPAC に公開したメディア別視聴覚資料数

メディア	資料数
テキスト	3,668
VCD	2
DVD	199
ビデオ・カセット	4,505
CD	1,597
LD	469
オーディオ・カセット	7,264
CD-ROM	2
Total	17,706

分類名	Audio	Visual	Text	合計
総記 [000]	1,431	231	1,019	2,681
語学・言語学 [100]	127	33	9	169
英語 [110]	2,480	582	904	3,966
フランス語 [120]	695	125	273	1,093
ドイツ語 [130]	453	146	190	789
スペイン語 [140]	197	91	92	380
中国語 [150]	395	49	176	620
ロシア語 [160]	98	33	26	157
韓国・朝鮮語 [170]	175	1	95	271
日本語 [180]	122	27	69	218
その他の言語 [190]	409	45	139	593
文学 [200]	0	117	0	117
英米文学 [210]	794	126	135	1,055
フランス文学 [220]	149	4	14	167
ドイツ文学 [230]	51	7	15	73
スペイン文学 [240]	15	0	1	16
中国文学 [250]	106	10	1	117
ロシア文学 [260]	43	3	1	47

韓国・朝鮮文学	[270]	0	10	0	10
日本文学	[280]	21	20	1	42
その他	[290]	1	4	1	6
社会科学	[300]	150	914	85	1,149
自然科学	[400]	4	181	0	185
保健・健康教育/心理学/哲学・宗教	[500]	31	365	19	415
教育	[600]	239	203	253	695
芸術	[700]	673	239	33	945
映画・演劇	[800]	2	1,611	117	1,730
Total		8,861	5,177	3,668	17,706

これらの視聴覚資料は、各学科・教室の要望を基本とし、それに学生の要望等を加味し、選定・購入している。AV 図書費または各学科図書費から支出し、適正な予算管理を行なっている。

DVD 等新しいメディアの購入にも力を入れ、できるだけ幅広い分野の資料を収集するように、視聴覚センターが選出した資料を、各学科の関連教員に推薦する等の努力をしている。

問題点と改善の方策

新しいメディアもいち早く取り入れるように努力しているが、既存の LD 等の資料とそれに対応する機器も保存しつつ、新しいメディアに対応する機器を導入しなければならない困難に直面している。

今後も、新しい情報をできるだけ取り入れながら、機器の導入の計画を進めていかなければならない。

また、学生からの要望にはできるだけ応えるように努力しているが、ともすると教育用というよりも興味本位の選択になりかねないので、内容等を調べてライブラリーに相応しい資料を購入するように今後も努力する必要がある。

D. 個人文庫

現状と評価

(1) 西脇順三郎コレクション

日本を代表する詩人であり、英文学者でもあった西脇順三郎が収集したコレクションである。昭和25年に本学が西脇氏自身から購入したもので、約3,000冊弱を有する。ほとんどの本に西脇氏自身による傍線が付されているが、受け入れた当初は学生への貸出を行なっていたため、現在はそれほどの傍線にあたるかの特定が難しいともいわれている。

カード目録による書誌データは完成しているが、現在、インターネット上での検索のためのデータベース化を急いでいるところである。

(2) 今岡十一郎文庫

ハンガリー研究の第一人者でもあった今岡十一郎の所蔵図書、雑誌、および夥しい数の研究メモとノート類からなるコレクションである。手稿が多いなど資料の性質上、劣化、散逸が危ぶまれるため、

ごく一部の研究者への限定公開という方法で対応している。

今後は、厳重な管理のもとに専門の図書館員または研究者による整備が必要となる。

4. 利用者へのサービス

A. 開館時間、閉館日、貸出冊数

現状

(1) 開館時間

図書館

授業期間中	8:40～21:00(貸出は 18:15 まで)[月～金]
〃	8:40～15:20(貸出は 14:30 まで)[土曜日]
その他の期間	9:00～16:30(貸出は 15:30 まで)[月～金]

AV ライブラリー

授業期間中	9:00～18:00(受付は 17:00 まで)[月～金]
その他の期間	9:00～16:30(受付は 16:00 まで)[月～金]

(2) 閉館日

図書館

- ・日曜日、祝祭日、休暇中の土曜日
- ・夏期・春期休暇中の一定期間、年末年始、入試期間、卒業式、蔵書点検期間

AV ライブラリー

- ・土曜日、日曜日、祝祭日
- ・夏期休暇中の特定期間、年末年始、入試期間、卒業式等

(3) 貸出冊数・期間

図書館

	貸出冊数	貸出期間
学部学生	無制限	4週間
大学院生		
聴講生		
卒業生	3 冊	4週間
TAC・他大学	3 冊	2週間

AVライブラリー

館外貸出 オーディオ系資料(3本まで)とその付属テキストを原則として1週間
(TAC・他大学は原則として利用不可)

評価

図書館では、2000年6月より貸出受付時間を従来の午後5時終了から1時間15分延長して午後6時15分終了とすることでサービス向上を図ってきた。6月から翌年1月までの午後5時以降の貸出冊数を比較すると2000年8,337冊に対して2001年9,533冊と順調に増加している。5時限目授業(16:20～17:50)に影響することなく図書貸出手続きおよび書庫利用ができるようになったため、利用者からは非常に好評をもって受け入れられている。

AVライブラリーは、夏・冬・春の長期休暇の前には長期貸出を実施しており、原則としてオーディオ資料とその付随テキストを、指定の期限まで数量無制限で貸出しをする。このサービスは、長期休暇中に学習したい利用者に好評である。

問題点と改善の方策

午後4時以降の閲覧業務は、専任職員と一部の嘱託職員が時差勤務体制をとっているが、午後6時30分以降は館内保全を外部委託することで午後9時までの開館に対応している。

現状では、利用者の集中する日中(授業時間中)のサービスを低下させることなく、今後さらなる貸出受付時間の延長を実施することは困難であり、別の人材を確保するなどの何らかの対策が必要である。

AVライブラリーでも、専任職員とパートタイマー2名が時差勤務体制をとって、午後6時までのライブラリー運営に対応している。現状では、これ以上の時間延長や土曜日等への対応は困難であるが、今後もサービスを向上するためには、人材の確保等を検討する必要がある。

B. 学生の図書館利用促進の工夫

現状と評価

図書館の利用を促し、授業をサポートするために、図書館で行なっている主なサービスは次のとおりである。

(1) ガイダンス

学生が図書館を有効に活用し、多様な情報検索能力を習得して自身の学習・研究を深めることを支援するとともに、教員をサポートすることを目的として、年間を通じて学科、学年、授業それぞれに応じたきめ細かい内容のガイダンスを随時実施している。

(2) レファレンス・サービス

図書館専任職員が毎日交代で、学生・教職員のためにレファレンス・サービスを担当し、図書館内の資料利用案内をはじめとして、蔵書検索のためのOPAC利用方法、CD-ROMおよび外部データベースの検索方法の説明を行なっている。また、リサーチペーパーや卒業論文に必要な資料収集に関する相談(文献複写、紹介状の発行など)に応じている。

そのほか、外部機関からの図書貸出依頼、文献複写依頼等の相互協力にも迅速に対応している。

(3)リザーブ図書制度

教員から指定のあった図書、授業で参考文献として挙げられている図書および利用頻度の高い図書は、リザーブ図書として1階閲覧カウンターに集め、利用の便宜を図っている。貸出期間も通常の4週間ではなく、1週間、3日間、館内利用の3種類で対応している。

(4)購入希望図書制度

レファレンス・カウンターで学部生、大学院生からの図書購入希望を随時受け付けている。2001年度の購入希望数は和書270冊、洋書252冊に上がったが、すでに所蔵していた、あるいは絶版・品切れ等で入手できなかった図書を除いて98%を購入しており、要望には十分応えている。また、購入希望をもとに利用者のニーズを把握し授業内容をも考慮してその周辺分野の資料の充実に努めている。

(5)図書予約制度

貸出中の図書については随時予約を受け付けており、2001年度の処理件数は1,757件である。予約図書については、貸出期間を短縮する、リザーブ図書扱いとする、場合によっては返却請求を行なう、複本を購入するなどきめ細かい配慮をしている。

(6)TACの利用

本学は国際基督教大学、国立音楽大学、武蔵野美術大学、東京経済大学とともに Tama Academic Consortium(TAC)を組織しており、図書館相互利用においては当初より緊密な協力関係を維持している。特に、図書資料の相互貸借において実績を上げている。

2001年度では、本学から他四大学に対して、図書貸出総数259冊、借受総数1,677冊、他四大学からの文献複写受付数41件にのぼり、着実な利用実績となっている。

問題点と改善の方策

学生へのガイダンスは、図書館の利用を促進させ学習・研究能力を向上させるためには非常に重要である。現在は随時行なわれている入学直後のオリエンテーションに始まる各種ガイダンスを、年間を通じて学生が定期的に参加できるよう、体制を整えることが望ましい。

また、大学図書館はこれまで学内の教育・研究の支援機関として中心的役割の一翼を担い、各種利用者サービスを提供してきたが、近年、図書館を取り巻く状況は大きく変化してきている。本学図書館でも国際化、情報化に対応した利用者サービスの展開が必要となっている。ガイダンスのほかに図書館ホームページを充実させるなどして、図書館から学内外に積極的に情報提供を行なっていく姿勢を確立することも重要である。

5. 利用状況

A. 図書館

現状と評価

月別の利用者数は下表のとおりである。図書館は学生、教職員に非常によく利用されており、夏期・春期休暇期間を除き、月平均延べ16,600人、1日平均延べ755人の利用者がある。

図書の館外貸出冊数も年々増加しており、これは、年間1,700件以上もの予約処理を行ない、利用が集

中する図書に関しては貸出期間を変更するなどのきめ細かい対応によって利用者の要求に応じていること、また、専任職員が交代でレファレンス業務を担当し利用指導を行なう一方で、学科、授業内容に即したオリエンテーションを継続して行なっていること、教員と連絡を密にして授業用リザーブ図書制度を取り入れていること、さらに、購入希望図書制度を通して学生の要望に沿うべく努力してきたことの結果と考えられる。

図表IX-5 月別開館日・入館者数状況(延べ人数)(2001年度)

4月(開館日23日)	12,081人	10月(開館日26日)	20,152人
5月(〃23日)	16,281人	11月(〃21日)	16,154人
6月(〃26日)	18,619人	12月(〃18日)	12,312人
7月(〃23日)	22,007人	1月(〃21日)	20,620人
8月(〃13日)	2,179人	2月(〃12日)	2,898人
9月(〃20日)	11,181人	3月(〃18日)	2,888人
		(開館総日数244日)	計157,372人

図表IX-6 図書館十進分類別利用状況集計表(2001年度)

	0..	1..	2..	3..	4..	5..	6..	7..	8..	9..	他	合計
図書館	5,754	2,560	6,107	26,101	4,144	1,055	816	2,101	7,556	8,890	662	65,746
洋書	73	221	310	4,233	2,216	17	207	631	3,880	1,594	364	13,746
和書	5,681	2,339	5,797	21,868	1,928	1,038	609	1,470	3,676	7,296	298	52,000

図表IX-7 図書館間相互協力利用状況(2001年度)

国内								国外	
図書・雑誌の貸借				文献複写				文献複写	
大学図書館		その他		大学図書館		その他			
貸出	借受	貸出	借受	受付	依頼	受付	依頼	受付	依頼
127冊	267冊	0冊	3冊	174件	359件	8件	13件	0件	44件

図表IX-8 レファレンス・サービス利用状況(2001年度)

利用者別内訳		
教職員	学生	学外者
169件	358件	215件
業務別内訳		
文献所在調査、事項調査		文献複写依頼、依頼状発行
122件		602件

B. AV ライブラリー

現状と評価

最近数年の資料の年間受入れ数は約1,200点、ブース利用人数は約15,000人(1日平均70人)、ブース利用時間187,000時間(1日平均80時間)で推移していたが、2002年度に入ってライブラリーの利用が増加している。年間の統計はまだ出ていないが、例えば比較的利用の安定している10月の統計を比較してみると、2001年度には1日平均96人、ブース利用時間1日平均114時間だったものが、2002年では1日平均164人、ブース利用時間1日平均178時間となっている。2002年度にビデオ教材を使用したホームページが課せられる英語DⅡ等の授業が始まったことと、安価なDVD資料が大量に入って利用が増加したことも要因の一つと考えられるが、学生からの購入希望をできるだけ採用し、資料の充実を図ったことや、新着資料の情報がわかりやすいようにコーナーを設け、視覚的効果を高める等の努力をしたことの結果と評価できる。

図表IX-9 AVライブラリー十進分類別利用状況集計表(2001年度)

	0..	1..	2..	3..	4..	5..	6..	7..	8..	9..	他	合計
AV	1,414	10,057	217	252	4	94	512	2,064	9,260	0	2,849	26,723
Audio	758	5,913	111	1	0	3	109	1,846	0	0	60	8,801
Visual	33	281	38	230	4	89	125	183	9,165	0	2,789	12,937
text	623	3,863	68	21	0	2	278	35	95	0	0	4,985

6. 学術情報へのアクセス

現状と評価

本学図書館は、1988年1月より図書館システムUTLASを使って洋書書誌、所蔵データのデータベース化に着手していたが、1996年10月からオンライン・コンピュータシステム(RICOH LIMEDIO)を導入することにより、和書、洋書、雑誌すべての図書館資料の整理・提供の迅速化を進めた。また、それと同時に学術情報センター(2000年4月から国立情報学研究所)の共同分担目録および所在情報サービス(NACSIS-CAT, NACSIS-ILL等)に参加し、学外諸機関とのオンラインでの情報交換を可能にすることによって、学部学生、大学院生や教員の要望に応じてきた。

(1) 国内

国立情報学研究所のILL(Inter-Library Loan)を中心に、全国の図書館と学術情報・資料の相互利用を行なっている。ほかに、近隣の大学図書館で構成される東京西地区大学図書館相互協力連絡会を活用している。

さらに、国際基督教大学、国立音楽大学、武蔵野美術大学、東京経済大学とともに多摩アカデミック・コンソーシアム(Tama Academic Consortium)を組織し、緊密な協力関係を築き、相互利用を実施している。

(2) 国外

Social Science Index、Humanities Index、Readers' Guide to Periodical Literature、Eric等のオンライン検索契約を結んでおり、海外最新学術情報を入手することを可能としている。また、2万タイトル以上の学術雑誌と10万タイトル以上の学会報告集を擁するイギリスのThe British Libraryの

inside-web とも契約を結んでおり、外国雑誌、学会報告等の記事を、必要に応じていつでも取り寄せることが可能である。

さらに、国内の書店はもとより、インターネットを介して海外の洋書店、古書店等の最新情報を把握し、世界中の図書についての利用要求に的確に対応している。

問題点と改善の方策

利用主体である学部学生、大学院生、教員の要求が非常に多岐にわたるため、その要望に完全に応えているとは言えないのが現状である。これに対応すべく、国内外の図書館、研究機関等との相互協力を一層強化し、範囲を拡げていく必要がある。

図書の選書・発注に関しても、今後、研究室からオンラインで行なえるような体制を整え、資料提供までのタイムラグを少しでも縮める努力が必要である。また、国内外のオンライン・ジャーナル等の電子化情報に対しても、その効果、長所、短所を充分見極めた上で、今後、その導入と活用について適切に対応することが重要であり、機器設備等の利用環境をより充実させるとともに、その利用技術向上に向け努力することが課題である。

また、本学図書館が現在、アクセスし、資料整備、相互協力に利用している国立情報学研究所の旧CAT/ILLシステムの提供は2004年12月末をもって終了し、2005年1月より多言語目録システムを含む新CAT/ILL完全オープンシステムとなる予定である。

本学図書館においても、それに対応できるよう、2004年12月までに新システムへの移行とそれに伴う教育・研究用および業務用ハードウェアの整備を完了しなくてはならない。